

業界の

声

● 山梨県食肉事業協同組合連合会

理事 齊藤義二氏



業界の現況は？

家畜の工サとなる穀物や原油価格の世界的高騰に加え、天候不順による肥育の遅れ等により、仕入れ価格は今までになく高値で推移しています。デフレは底を打ったとはいえ、まだまだ売価への転嫁は難しく、また、O157、BSE、鶏インフルエンザ等自然発生的な事象に加え、表示の偽装等の人為的問題と消費者の業界への不信感は増大するばかりで、大変厳しい状況に追い込まれています。

業界の動きとしては、後継者不足や大型店の出店で、小売店は減少の一途をたどっています。業務用卸も一部の地域を除いては飲食業界の不振のおおりに受けて、現状を確保するのに精一杯です。また、経済の地域間格差により地方の市場に商品が集まりにくくなっている状況です。

今後の展開は？

まずは、何より消費者の食肉に関する信頼をとりもどすことが先決で、食肉業界全体でコンプライアンスの勉強会を各地で行っているところです。また、他店との差別化を図るために、自家製の加工品の製造等に力を注ぎ、さらに後継者が自分の個性を発揮出来るようにハム・ソーセージの製造免許取得方法の改善等を厚生労働省に働きかけていきます。その他にも、今後も消費者へ確かな情報を伝達するために、仕入れ・商品管理の徹底をすることも責務で、これらをしっかりとやること、商品ロス」が減少し、利益を確保することが可能となり、安定した経営につながっていくと思います。

